

- ・議会事務局は議場内でタッチパネルを操作し、発言者のマイクをONにする。
- ・職員の席から全体は見渡せないなので、議長の指名を聞いてパネルを操作する。
- ・遠野テレビは、社屋でカメラとテロップを遠隔操作する。
- ・マイクは、自ら Talk ボタンを押して話すこともできる。同時に5人まで。
- ・マイクユニットは一人に一つ。充電池内臓で5～6時間利用可能。
- ・マイク50に対して充電池100を用意し、適宜交換する。
- ・マイクには外部電源の差し込みもあり、議場では電源をACからも取れる。
- ・マイクの採決用ボタンは5つあり、適宜カスタマイズできる。
- ・会議場所の移動によって、マイクの移動に一定の時間を要する。(人出を集める)
- ・マイクのグースネックは長いもの、指向性は狭い。
- ・赤外線による通信が受信感度に問題が無いか質問があった。(問題ない)
- ・マイクの充電池が切れることを防止する対策を求める意見があった。(万全を期す)
- ・新議場のカメラ、赤外線受信システムは新設。大会議室のカメラは現機材を流用。
- ・場内のモニターは4カ所。傍聴席向けには位置を再検討する。
- ・議長席には10インチのモニターで中継の状況が確認できる。
- ・音声は、事務局において媒体に録音できる。
- ・議場内のモニターは、放送画面、時間表示、採決表示以外は映せない。
- ・モニターに表示した個人ごとの採決の結果のデータは残せる。
- ・会議開始用のチャイム等が設定できる。
- ・発言の残時間に応じて、警告音が流せる。
- ・映像のインターネット配信は想定されていない。
- ・システムの提供元から、遠隔操作でのシステムの復旧等は出来る。

#### 【今後の検討課題】

- ・議会事務局と遠野テレビで、議会の進行手順やテロップの流し方の協議を要する。
- ・システムの運用について、提供元との細部の協議を要する。
- ・当局の席配置について、固定したパターンを作る検討を要する。
- ・モニターに、映像や資料が映写できるようにする必要がある。
- ・インターネット配信の方法について検討、協議する必要がある。